

# たけら

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI  
No. 683

9

September, 2013

発行 財兵庫県水産振興基金



但馬のノドグロ (香美町香住区) : 写真提供 JF兵庫漁連 西上幸作氏

**TPPから我が国水産業を守る  
緊急全国漁連・県漁協・信漁連会長会議 開催**

**但馬地区 沖合底曳網漁業 解禁**

**マリンスクール 開講**



# ようこそ

「ようこそ」とは航海用語で「宜しく候」の意。  
主に船を直進させるときに号令として使われる。

## 親父の背中

共水連兵庫県事務所 磯田 政志



私の親父は今年で年齢83歳になります。最近では寄る年波には勝てず、通院回数や服薬が多くなりましたが、何とか日々の生活を送っています。親父は40年余りにわたって沖合底曳網漁業に従事してきました。乗組員の中で最年長であり漁師経験もながいことから10人余りの乗組員を纏めていたようです。操業中は安全第一であることは言うまでもなく、船上で働く漁師の信頼関係がなければ事故を誘発することになり、親父が最も気をつけていたことでした。人を信頼し、周りの知人や友人に対して常に謙虚に接するよう心がけるそんな親父です。

私が兵庫県事務所の所長を拝命したことを親父に報告した時、大好きなお酒を飲みながら一言私に言いました。「一緒に働く皆さんを大切に仕事をしていなくとあかん」これは、共水連組織だけではなく、漁業者、漁協役員、系統団体で働く人達全員がみな財産であつて、それらの人達を支えられているから仕事ができる。そんなことを親父なりに伝えようとしていたのではないかと思っております。

大学進学、就職、結婚、住宅購入等々、転機を迎えた時親父に相談すると、「お前の思ったとおりにやったらええ」と決して否定することなく、必ず肯定して、背中を押してくれていました。数年前バイクに搭乗中、交通事故で右足の小指を切断する事故に遭い家族は心配していましたが、自分の事より事故の際に救急車を呼んで対処していたのだ、面識のない女性にお礼を言えない事を今でも嘆いている。そんな義理堅い親父です。

私は親父の背中を見て育ってきましたが、果たして親父と同じように周りの方々に謙虚に接することができているだろうか？横柄な態度をとっていないだろうか？部下をきちんと信頼して組織を纏められているだろうか？ことある毎に自問自答する日々です。親父から学んだ、常に「謙虚な気持ちを忘れず」を基軸として、周りの方々と接していきたいと考えております。

今後は年老いた両親に少しでも親孝行できる機会を作っていきたいと思っておりますが、まずは何より健康であつて欲しいと願っています。「親孝行したい時に親はなし」にならないように。

## CONTENTS

No.683 September. 2013

- 2 ようこそ
- 3 TPPから我が国水産業を守る緊急全国漁連・県漁協・信漁連会長会議 新JF組合長のご紹介
- 4 但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイガニのカニカゴ漁が解禁 第11回 JFマリンバンク全国大会
- 5 瀬戸内法制定40周年記念でシンポジウム 地区別漁協役員研修会を開催
- 6 平成25年 のり養殖技術研修会
- 7 平成25年度 淡路地区漁協青壮年部視察研修会 関学生が浜で聞き取り調査
- 8 撮播漁青連の「干しダコ教室」
- 9 平成25年度 兵庫県立水産技術センター研究発表会開催 海難事故をなくそう！
- 10 今年も開催！平成25年度 マリンスクール
- 11 但馬地区の各漁協青壮年部の「少年水産教室・漁業体験教室」 兵庫県漁港漁場協会へ名称変更
- 12 JF明石浦で“命を守る運動”海上安全講習会開催！
- 13 兵庫JCC通信
- 14 旬に想う 大輪田塾だより



### 表紙の言葉

### 「但馬のノドグロ」(香美町香住区)

写真提供：JF兵庫漁連 西上幸作氏

いよいよ但馬の沖合底曳網漁業が解禁しました。

写真は皆様よくご存じのノドグロです。

正式和名はアカムツですが、口内が黒いのでノドグロと呼ばれ、刺身はもちろん、焼いてよし、煮てよしの高級魚として知られます。

ノドグロをはじめ、ハタハタ、カレイ類、ベニズワイガニなど、但馬の美味しい魚が食卓に上がる季節になりました。

## TPPから我が国水産業を守る

### 緊急全国漁連・県漁協・

### 信漁連会長会議

JF全漁連（岸 宏会長）は8月5日（月）に東京・内神田のコープビルにて「TPPから我が国水産業を守る緊急全国漁連・県漁協・信漁連会長会議」を開催しました。兵庫からはJF兵庫漁連 山田 隆義会長が参加したこの会議は、日本が初めて参加したマレーシアで開催の第18回TPP交渉会合の中で、漁業補助金の規律について議論がされたかどうかは明らかになっていませんが、漁業界における最大の懸念事項であると捉え、開催されたものです。

会議冒頭、岸会長は「政府は、TPP交渉において例外なき関税撤廃は前提でないと交渉参加に踏み切った。我々水産業は存続が脅かされ、国益が守られないのなら交渉撤退を強く求める」としたうえで、「漁業補助金原則禁止を標榜しているTPP交渉参加には断固反対。もし禁止されれば日本の漁業は存続できなくなる。水産食料の安定供給が出来なくなる。漁村が潰れる。日本が潰れる」とし強い危機感を示しました。このあとJF全漁連 長屋 信博専務からの情勢報告に続き、JF全漁連 永富 洋一副会長が決議文を読み上げ、満場一致の拍手をもって採択されました。会議後、山田会長は兵庫県選出の西村 康稔内閣府副大臣、末松 信介自民党水産部会長のもとを訪れ、TPPから我が国水産業を守るための要請を行いました。また、岸会長にも同行し、甘利 明内閣府特命担当大臣と林 芳正農林水産大臣にも同じく要請を行いました。

## TPPから我が国水産業を守る緊急決議

我が国は、マレーシアで行われた第18回TPP交渉会合に初めて参加した。交渉において、漁業補助金の規律がテーマとなり、議論が行われているかに関する情報は明らかになっていない。

漁業界にとって最大の懸念事項である漁業補助金の規律は、漁業資源に関わるすべての国の間で議論すべき問題であり、TPP参加国のみが規制を行えば、我が国をはじめ参加国が非参加国の漁業との間で競争力を失うことになるから、われわれ漁業者は、漁業補助金を協議の対象としないよう、国は最大限の交渉力を発揮して今後の協議に臨むことを強く求めるものである。

WTOルール交渉において、米国、豪州、ニュージーランドなどは、漁業補助金の原則禁止をかねてから主張している。こうした中、今般のTPP交渉において、万が一協議が行われる場合にあっても、WTO交渉において、わが国がこれまで主張してきている通り、協議の対象を真に過剰漁獲につながるものを限定し、東日本大震災からの漁業復興支援策を含め、漁業政策の実施が阻害されないことを聖域として守り抜くことを求める。

また、市場アクセス分野においては、EPA協定において関税を撤廃していない水産物を重要品目と位置付け、TPP交渉では除外または再協議の対象とすることを求める。

以上の要望が実現できず、わが国水産業の存続が脅かされ、国益が守れないと判断した場合には、国会決議にのっとり、交渉から離脱することを強く求めるものである。

以上を決議する。

2013年8月5日

TPPから我が国水産業を守る緊急全国漁連・県漁協・信漁連会長会議

## 新JF組合長のご紹介

平成25年7月～9月までの間に、新たにJF組合長に就任された方の御名前をご紹介します。

●JF室津浦 代表理事組合長 連 勝也氏（8月14日就任）

※財兵庫県水産振興基金確認分

# 但馬地区の沖合底曳網漁業・ ベニズワイガニのカニカゴ漁が解禁 ～9月1日に一斉解禁～

JF兵庫漁連 但馬支所



ベニズワイガニの初セリには多くの報道陣が...

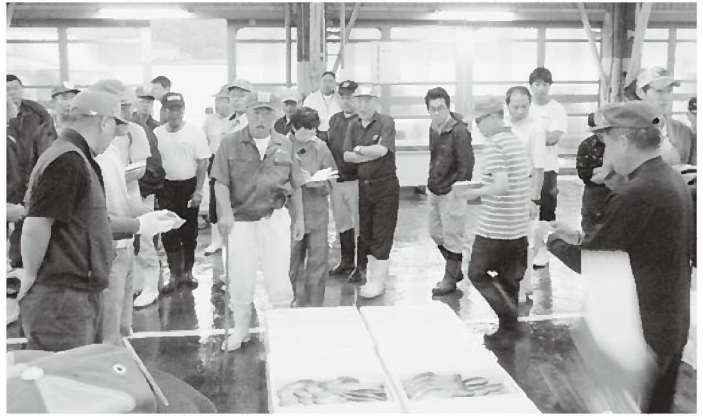
9月1日(日)から但馬の主幹漁業である沖合底曳網漁業とベニズワイガニカゴ漁業が解禁となりました。

初セリは、9月2日(月)に但馬の各港(津居山・柴山・香住・浜坂・諸寄)で行われ、沖合底曳網で獲られたアカカレイ、ハタハタなどが次々に水揚げされるなか、浜は活気に包まれました。沖合

底曳網漁では9月～10月はカレイ類・ハタハタ・ノドグロなどを中心に漁が行われ、11月6日(火)に解禁されるズワイガニ、3月～4月のホタルイカなど様々な魚種を対象に来年5月31日(土)まで漁が行われます。

また、9月4日(水)には香住西港でベニズワイガニの初競りが行われました。台風の影響で5隻の出漁となりましたが、近畿圏唯一の水揚げ港である香住港には報道陣の姿が多く見られ、こちらも活気に包まれました。

いよいよ始まった今漁期の操業安全と豊漁を祈念いたします。



セリに活気づく柴山港

## 第11回 JFマリンバンク全国大会

JF兵庫信漁連

JF全漁連、農林中央金庫共催の「第11回JFマリンバンク全国大会」が7月9日(火)東京・港区のホテルで開かれました。「浜の暮らしを守る信頼の金融へ」をテーマに開催された大会には、全国から貯蓄推進委員、優良JF女性部、JF信漁連、県JF、JF全国女性連の関係者等約110名が出席しました。

大会では全国の推進委員に対する感謝状の贈呈があり、兵庫はJF淡路島岩屋東根壽組合長、JF但馬磯田和志理事に贈られました。

このあと、岩手県信漁連磯谷大船渡支店長による県域事例発表や、キャスターでエッセイストの福島敦子氏による「私が出会った素敵な人たち」と題した記念講演が行われ、会場は大いに盛りあがったなか、大会宣言を採択し終了しました。





# 瀬戸内法制定40周年記念でシンポジウム

## 井戸知事「豊かで美しい里海再生へ法整備を」

(財)兵庫県水産振興基金

瀬戸内海環境保全特別措置法の制定から40年が経ちました。これを記念して環境省、知事・市長会議、(公財)瀬戸内海環境保全協会は9月7日(土)に高松市内でシンポジウムを開き、「里海」の実現に向けての意見交換を行いました。同法は、高度経済成長期に「瀬死の海」と表現されるほど汚染が進んでいた瀬戸内海の水質を改善するため、昭和48年に議員立法で臨時措置法(5年後特別措置法に改正)として制定され、以来、COD総量削減、チツソ・リンなど化合物の削減指導などで一定の成果をみましたが、他方、漁獲量の減少やノリの色落ちなど生物生産性・生物多様性の低下と新たな課題が顕在化してきています。

シンポジウムでは、瀬戸内海の実環境保全の重要性を再認識するとともに、この海を豊かで美しい「里海」としてどのように再生してゆくのかが、井戸 敏三兵庫県知事、柳 哲雄九州大学名誉教授らパネリストが様々な視点から提言されました。会場の岡山県の漁業者からは、「この場に経済産業省、農林水産省からの参加があるべき。環境再生には省庁の横断的施策が必要だ」の声が出るなど議論がありました。コーディネーターを務めた松田 治広島大学名誉教授は、NPO水辺に遊ぶ会の発言を引用



様々な意見が交わされたシンポジウム

し「生きもの元気、子供が元気、漁師さんも元気な瀬戸内海を目指そう」と締めくくられました。記念式典には産官学から約1千人が参加。開会では井上 信治環境副大臣の挨拶に続き、瀬戸内海環境保全知事・市長会議議長の井戸知事より「水質浄化に成果は上がったが、漁獲量減やノリ色落ちが顕著になっている。豊かで美しい海を取り戻すのが最重要課題だ」と挨拶があり、瀬戸内海の再生に意欲を示されました。この後、シンポジウムは「瀬戸内海里海宣言」を採択し閉会されました。なお、この日の午前中に開かれた、瀬戸内海関係漁連連絡会議で懸案の再生への具体要望案が決定され、近々、政府国会へ要請行動が行われる見通しとなりました。

# 地区別漁協役員研修会を開催

## ～JF役員の特権と責任について学ぶ～

(財)兵庫県水産振興基金



JF兵庫漁連と(財)兵庫県水産振興基金では、県内3地区において漁協役員研修会を開催するとし、8月23日(金)には但馬地区で開催しました。

この研修会は、漁業を取り巻く環境が厳しさを増すなか、近年、経済社会のグローバル化、IT化等情報化の進展により、JFに対しても組織運営の透明性やガバナンス(組織統治)の強化が求められていることから、これら情勢の変化に対応した開かれた組織づくりを目指すとともに、水産業協同組合法を基本としたJF役員の特権と責任等について認識を深め、健全な組合運営に資することを目的としています。

23日の研修会は、JF但馬 中会議室に但馬地区JFの役員等のほか、行政・系統団体役員らあわせて約60人が集まりました。講師のJF全漁連 石川 和彦信用組織指導部長は「JF役員の特権と責任について」と題した講演を行い、JFの健全な運営を確保するためのガバナンスやコンプライアンスの重要性について話しました。

この研修会は、引き続き淡路地区、摂播地区で次の通り開催が予定されています。

- 淡路地区 平成25年9月19日(木)  
淡路市立中央公民館(しづのおだまき館)
- 摂播地区 平成25年9月20日(金)  
明石商工会議所

ノリ養殖について様々な角度で研修  
 ～平成25年のり養殖技術研修会～

JF兵庫漁連のり海藻事業本部

9月4日(水) 明石市の兵庫県立水産技術センターで、JF兵庫漁連(山田 隆義会長 主催による「平成25年のり養殖技術研修会」が開催され、ノリ生産者・関係者ら約140名が参加しました。この研修会は、毎年この時期にノリ養殖の持続的発展のために必要な知識技能を習得し、ノリ養殖業の経営安定に資することを目的に行われ、今年も8課題について発表がありました(別表参照)。

講演では、外部学識者の奈良先端大学 光井氏が、ノリの付加価値創出のヒントについて紹介し、海苔産業情報センター 藤井氏は、ノリを売るために行われている様々な事例を紹介され、両講師とも「失敗を恐れずに前に進むことが成功につながる」とされ、現状を打破するために、漁業者が新たな一歩を踏み出すことの大切さを訴えられました。他に漁場環境、アオノリ養殖等についての発表も行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。



会場には大勢の参加者が詰め掛けました



藤井講師の講演風景



光井氏の講演

題 目	講師・発表者
平成24年度漁場環境について (研究報告)	中谷 明泰 (JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 統括代理)
イオンビームを使った養殖のりの品種改良について (講演)	二羽 恭介 (兵庫県立水産技術センター 主席研究員)
平成25年度漁期に向けて (研究発表)	小西 好 (JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 主任研究員)
海苔の高付加価値化を考える (講演)	光井 将宇 (奈良先端大学 客員准教授・6次産業化プランナー)
大型ノリ自動乾燥器等の施設整備に利用可能な国交付金(産地水産業強化支援事業)の概要について (事業報告)	岩佐 隆宏 (兵庫県農政環境部農林水産局 漁港課 主査)
海苔の消費流通動向及び今年度の相場について (講演)	藤井 弘治 (海苔産業情報センター 代表)
アオノリ養殖試験結果及び今後の展開について (研究報告)	竹迫 史裕 (JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 主任研究員)
海苔漁場における安全対策について (報告事項)	第五管区海上保安本部 西岡 嗣容 (交通部企画課 課長補佐) 上田 真丘 (警備救難部救難課 計画係長)

(発表順 敬称略)





シェルナースに使うカキ殻を見る



白いか祭り開催で活気づく浜

境港さかなセンターの見学では、旬の白イカやイワガキ、サザエなど境港で揚がった魚介類のほか、シジミの乾物やエテカレイ、ハタハタの一夜干しなど淡路では見られない魚が並んでおり、参加者は興味深そうに見ていました。「賀露白いか祭り」は、地域の名物である白イカを使った露店が軒を連ね、刺し身や丼、イカ焼きなどが売られていました。また先着50組限定でヒラメの稚魚放流やタッチプール（捕まえた魚は持ち帰り出来る）などのイベントも行われていて、参加者からは「タッチプールなどの手法は参考になる」などの感想が聞かれました。

## 平成25年度 淡路地区漁協青壮年部 視察研修会

淡路地区漁協青壮年部連合会

淡路地区漁協青壮年部連合会（中村 高治会長）は、魚礁や水産市場、水産イベントの視察を目的として7月14日（日）・15日（月）の2日間にわたり平成25年度の視察研修会を行いました。14日は岡山県玉野市の三国工業株式会社向日比工場で、貝殻を利用した魚礁シェルナースと、鳥取県境港市の境港さかなセンターを視察し、翌15日に鳥取県賀露港で行われた「賀露白いか祭り」を見学しました。シェルナースは、カキ殻をパイプの中に詰め、そのパイプを使用用途別に組み合わせて作る魚礁です。淡路島で対象となる魚種のタイ類やカレイ類をはじめ、ウニ、アワビ、ナマコなども定着するとされ、岡山県や愛媛県、香川県などで使用実績があるものです。参加者からは「他県で実績があるので、設置費用が高額であるが淡路島でも挑戦したい」との意見がありました。

境港さかなセンターの見学では、旬の白イカやイワガキ、サザエなど境港で揚がった魚介類のほか、シジミの乾物やエテカレイ、ハタハタの一夜干しなど淡路では見られない魚が並んでおり、参加者は興味深そうに見ていました。「賀露白いか祭り」は、地域の名物である白イカを使った露店が軒を連ね、刺し身や丼、イカ焼きなどが売られて

## 関学生が浜で聞き取り調査

卒業論文のテーマは「明石だこ」



（財）兵庫県水産振興基金

関西学院大学文学部 田和 正孝教授（大輪田塾講師・顧問）のゼミ生が、明石だこの聞き取り調査のためJF林崎を訪れました。これは6月に行われた同大学の田和ゼミと、摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角 生馬会長）との交流会（拓水7月号 No.681参照）において、田和教授から「4回生 右田 翔大（みぎた やすひろ）君が卒業論文の内容に『明石だこ』を選んだので協力してほしい」と依頼を受け、交流会に参加していたJF林崎組合員 福山 貴久さんの協力で実現したものです。8月17日（土）、右田君は福山さんの案内で、同JFのセリ市を見学したほか、その場に居合わせた組合員の皆さんから話を聞くことが出来ました。また、タコ漁やタコの生



右田さん（右）と協力した福山さん

干しダコづくり！  
 ～摂播漁青連主催の教室を開催～

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会



摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角 生馬会長）は、これまでの保育園・幼稚園を対象にした食育活動に加え、県産水産物のPRを兼ねた魚食普及活動「親子で楽しむ干しダコ教室」をJF兵庫漁連 SEATER CLUBの協力を得て開催し、夏の日差しが照りつけるなか、参加者らは楽しいひとときを過ごしました。

8月6日（火）、参加者の13組の親子31名と同漁青連メンバーら約60名が

水産会館に集まり、一階駐車場に設置されたタッチプールで、体長約1mのサメや、アナゴ、タコなど様々な魚を手づかみにして楽しみました。

このあと、水産会館屋上で干しダコ教室が行われました。干しダコづくりの講習を聞いた参加者は、大角会長はじめ、同漁青連メンバーのサポートもあって、和気あいあいと干しダコづくりをすすめ、完成時には一緒に記念撮影をする姿も見受けられました。



お兄ちゃんの作業をパチリ



上手く出来たようですね

参加者はこの後、漁師直伝のメイタガレイの煮付けも作りました。親子で下処理から調理まで行い、自分で鱗と内臓を取った魚を嬉しそうにずつつけている子どももおり、干しダコづくりとともにこちらも大いに楽しんで

もらえたようです。出来上がった煮付けは、用意された味噌汁、くぎ煮やチリメンなどと食べていただきました。同漁青連では今後も、様々なアイデアを持ち寄り、魚食普及活動を推進していきます。



包丁の持ち方も学びました



休憩中の部員達 揃いポロシャツは「WE♥SEA」



# 平成25年度 兵庫県立水産技術センター 研究発表会 開催



発表会の様子

8月6日(火)、平成25年度兵庫県立水産技術センター研究発表会が明石市二見町の同センターで開催され、関係者約70名が参加しました。この催しは、兵庫県における水産試験研究の最新の成果について分かりやすく発表するもので、同センター見学会と併せて、毎年、夏休みのこの時期に行われています。

研究発表会は、午後から行われ、各研究員から5件の報告がありました。(別表参照)

今回の発表は、これからの水産の技術開発に重要な研究課題で、漁業者や系統団体、行政、市民団体等、会場に詰めかけた参加者は真剣に聴き入り、発表後の質疑応答では多くの意見が交わされました。

発表内容	研究者名
但馬沿岸に生息するウニ類の有効性について	長濱 達章(水産技術センター資源部 主席研究員)
兵庫県における麻痺性貝毒の発生と原因プランクトン	宮原 一隆(水産技術センター資源部 主席研究員)
海洋観測を通して見た日本海但馬沖の海域環境	西川 哲也(但馬水産技術センター 主任研究員)
ワカメの種苗づくりと活用方法	二羽 恭介(水産技術センター増殖部 主席研究員)
マガキ人工採苗技術の確立とこれからのカキ養殖	谷田 圭亮(水産技術センター増殖部 主席研究員)

(敬称略)

## 海難事故をなくそう!

ライフジャケットを  
着用しよう!



メンテナンスフリーの  
固型式ライフジャケット

モデル：兵庫県漁業共済組合  
高寄 浩至さん

着用時の生存率は  
約80%です。

なお、着用の際は  
体にあったサイズ  
を選ぶか、金具等  
を調整して使用し  
ましょう。

～安全をサポート～  
浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。



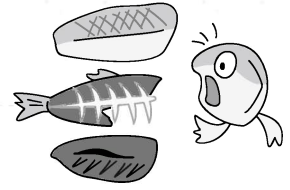
※ライフジャケットではありませんので、  
一人乗りの漁船の場合、ライフジャ  
ケットを着用してください。



よく浮きます!!

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

## 今年も開催！平成25年度 マリンスクール



## JF兵庫漁連 広報部

コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連による協同組合の連携活動として毎年実施しているマリンスクール（2コース）が今年も開催され、参加した親子連れ（約130人）は楽しく漁業や県内産水産物について学びました。

第31回となるJF神戸市コース（7月25～26日）では「セリ市」を見学したり、「魚のつかみ取り」、「タコの塩もみ」などを体験した後、県水産技術センター 小田垣 寧専門技術員、県神戸農林 岡辺 真一課長補佐をお魚博士として迎え、子供たちに県内の漁業や水産物の話をして頂いたほか、神戸市立栽培漁業センターの協力でヒラメ稚魚の放流も体験



セリ市見学



ヒラメ稚魚の放流（JF神戸市コース）

することができました。また、第3回となるJF兵庫漁連SEATER CLUBコース（8月2～3日）では、お魚博士として県加古川農林 大橋 広義主任に協力頂き、「干しダコ作り」や「アジの三枚おろし」、「チリメンモンスター探し」に挑戦しました。どちらのコースも、いろいろな魚に直接触れられた皆さんの目は輝いていました。

JF兵庫漁連では、「来年も参加したい」と好評だったこのイベントを、さらに漁業や水産物をより広く身近に感じてもらえるよう、来年以降も取り組んでいきたいと考えています。



魚のさばき方講習



干しダコづくり用のタコの掴みどり



# 但馬地区の各漁協青壮年部の 「少年水産教室・漁業体験教室」

JF兵庫漁連 但馬支所

但馬地区のJF但馬・JF浜坂の青壮年部が、地元基幹産業である漁業の魅力や重要性について知ってもらおうと、地元小学生とその保護者・教員を対象に様々な活動を行っている「少年水産教室・漁業体験教室」が今年も開催され、夏休みの一日、浜は子供たちの歓声に包まれました。



缶詰づくりに挑戦 (香住)



スルメイカの一夜干しを作りました (柴山)

浜坂漁協青壮年部はあいにくの天候のため、残念ながら実施できませんでした。が、津居山青壮年部は7月26日に、香住青壮年部と柴山青壮年部は8月2日に開催し、3地区で延べ80人が参加しました。各地区の参加者は、県立香住高等学校の実習船「但州丸」や、兵庫県漁業調査船「たじま」での底曳網漁業体験を行

いました。参加者は底曳網体験で漁獲されたいろいろな魚に目を見張っていました。

また、各青壮年部は底曳網体験のほか、工夫を凝らした盛り沢山のプログラムを用意しており、漁協・女性部の協力で地元水産物を使った昼食を食べたり、イカの一晩干しづくりや、香住高校において缶詰製造作業を体験したり、プランクトン観察も行うなど大好評のうちに終了しました。

各青壮年部は、これからもこの教室を通して漁業について理解を深めてもらい、後継者育成や更なる魚食普及に繋がたいと考えています。



サメが取れました! (津居山)

## 兵庫県漁港協会と兵庫県沿岸漁業振興協議会が合併

兵庫県漁港協会と兵庫県沿岸漁業振興協議会は合併し、兵庫県漁港漁場協会に名称を変更しました。なお、住所、電話番号等は旧兵庫県漁港協会と同じです。

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-5-18 兵庫県林業会館404  
TEL・FAX (078) 351-6107

**JF明石浦で“命を守る運動”  
海上安全講習会 開催!**

～サバイバル訓練と  
救命救急法の体験～



サバイバル訓練の様子



様々なライフジャケットが紹介されました

多くの質問も出るなど関心が高く、もしもの時の様々な対処法も紹介される充実した講習となりました。最後に講師は、これから心肺蘇生術について「うまくいかどうか不安もあるだろうが、勇気をもって実行してほしい」と締めくくられました。



救命救急講習の様子

9月3日(火)、JF明石浦(戎本 裕明組合長)は海上安全講習会を開催し、約60名が参加しました。(財)兵庫県水産振興基金 戸田 氏 専務の「とにかく海難事故をなくそう」という挨拶で始まった講習会は、神戸海上保安部担当者を講師に招き、まずサバイバル訓練から行いました。漁協青年部・職員らが海に飛び込み、様々なタイプのライフジャケットを体験するとともに、講師からそれぞれの性能・特性について分かりやすく説明がありました。飛び込んだ方の「長靴に入った水は思った以上に重く、船に上がりにくい」との意見があったことに対し、講師はロープで作れる梯子、ライフロープの実物を示し説明しました。また、浮力合羽の実演も行われ、講師はあくまでも「ライフジャケットの補助的なもの」としながらも、十分な浮力があると紹介しました。また、漁協会議室においてJF役員を対象に救命救急講習も行いました。同保安部の講師による座学のほか、訓練用マネキンを使い胸骨圧迫や、AEDの使用方法などを体験しました。

事故を未然に防止するため

**“命を守る運動”「海上安全講習会」**

を県下各地で開催しております。

～講習会の開催申込みは下記団体まで～

この取組みは、平成22年よりJFや関係団体を対象に行っており、海難事故対策・ライフジャケット着用推進等の内容で開催しています。(この模様は本誌「拓水」で適宜紹介しています。)

講習会開催についてのお問い合わせは

**JF兵庫漁連指導部まで TEL 078-940-8013**



## 懇話会で農業施策を 林農林水産大臣に要請

7月1日(月)「林芳正農林水産大臣との懇話会」がANAクラウンプラザホテル神戸で開かれ、県内の農林水産関係団体が出席し、林農林水産大臣に各団体が要請をしました。兵庫県選出の末松信介参議院議員の政経セミナーの開催に合わせて、林農林水産大臣が講師として出席したのを機に実現しました。

JA兵庫中央会の石田正会長は、肥育牛の防疫対策、生産資材の高騰対策、株式会社の農地取得の禁止、所得倍増戦略の具体策の明示について要請。「政府の産業競争力会議で株式会社の農地取得の解禁の議論が再燃しているが、地域農業を守るためにJAグループは断固反対である」などと強調しました。これに対して林農林水産大臣は「農地中間管理機構を軸として農地の利用集積を進めるが、株式会社についても農地はリース(賃貸借)方式によることが基本と考えている」と答えました。



林農林水産大臣(右)に要請する石田会長(左)

## 姫路医療生協 『福祉介護センターめが』 オープン!

姫路医療生活協同組合では、2012年度事業として建設を進めてきた『福祉介護センターめが』が、ついに完成しました。『福祉介護センターめが』の1階は小規模多機能ホーム、2階と3階は姫路医療生協では初めてのグループホームです。

6月27日(木)、現地で開所式を行い約250人が訪れました。

記念式典では荻野俊夫理事長の挨拶の後、地元自治会長と近隣の飾磨高等学校校長から祝賀のご挨拶を頂きました。その後、テープカット、和太鼓サークル『ほこほこ』による太鼓の演奏とつづき、会場の祝賀ムードは高まりました。

『福祉介護センターめが』が、地域のコミュニティとしての役割を担い、相互連携によって地域社会の発展に貢献することを、地域のみなさまから期待されていると実感できた開所式でした。

式典終了後は施設の見学会を行い、参加者はスタッフの説明のもと、小規模多機能ホームのデイルームや宿泊室、グループホームの明るい居室や、落ち着いた雰囲気のリビング、特殊浴槽を備えた浴室、広いテラスなどをじっくりと見てまわりました。

7月1日のオープン初日は、グループホーム入所者の方々の引っ越し作業でスタートしました。



<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



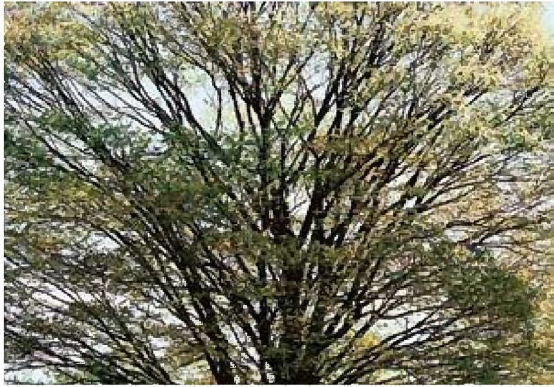
# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 名前を覚える法

◆多くの知人を得ようとする場合、名刺交換会などへ出席すれば可能である。人と出会うと初対面で名刺を交わす、名前が名乗られ当方も名乗り挨拶する。此の「名刺」を考えたのは中国で、紙が発明される以前は木の札に名前を書いて使ったそうだ。名刺を差し出して面会する事を「刺を通ずる」という。沢山の名刺が溜まり住所録がしだいに膨らんで行く。名刺から顔や人柄などを思い出せれば良いが、ハテ誰だっけとなり名刺に写真が無いのを悔んだりする。人の記憶には限界があつて、実に曖昧なものである。思い出すとしても、古い映像を思い起こすよう、少しも纏まらず曖昧模糊として霞の中なのである。

◆野鳥を見つけた場合、色や大きさ・嘴や過眼線など詳細な観察が出来れば、図鑑で調べるには都合が良いし、鳴き声の記憶も大いに役立つ。人を観る場合も似ているように思う。顔や形の特徴を名刺裏に書き止めたり、似顔を描くのもいい。古い名刺裏に、植村謙二郎や内田朝雄と書いたのがある。洪い役者をイメージしたメモだが、その名前がヒントでフツと顔が浮かび出てくる。特徴を覚えるには観察するしか無いが、余りジロジロしげと見るのも失礼な話であり、然りげ無く観て的確な判断をするしかない。メモを取るのには役立つ法だと思ふ。最近の写真付きの名刺が、断然おすすめなのであるが…。



ケヤキ大樹

◆花との付き合ひも、先ず名前を知る必要がある。野に咲く花も、名を知る知らぬとで親しみに差が生じ、名前を覚える事で花がより身近に親しみ易くなる。知らない花の名前を調べるには、検索図鑑が役立つが、花の色や形・季節・環境など出来るだけ詳しいデータを揃えて当たれば、何とか辿りつける。記憶を元に漫然と図鑑を繰って探るのは、時間が掛かり過ぎて大変な根気が必要で、途中で嫌気がさして仕舞うが、こうして覚えた名前は忘れる事がない。

◆初冬に林の中でキノコを採取した。図鑑で調べてエノキタケと判ったが市販の人工栽培品とは色も形も全く違い、別名ユキノシタともいう冬季の茸で、紛らわしい毒茸は無く食べて善しとあるが、家内は疑って食べなかった。味噌汁にして絶妙の味を独占して愉しめた。同じ林でキクラゲも見つけ、これは中華料理でお馴染みだからと、家内も喜んで食べた。キノコの美味しさを楽しむには、先ず名前を覚えて有毒の顔を記憶する事にあるが、キノコ類は未だ未だ研究途上にあるから、食用とされていたスギヒラタケが先ごろ毒茸と判明、食用茸と記述の図鑑も多くなる。親密に付き合うには最新情報も大切だと思つた。

# 大輪田塾だより

## 平成25年度大輪田塾修了論文発表会

今秋に研修課程修了を目指す第7期生が、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表する「平成25年度大輪田塾修了論文発表会」が、当塾運営委員や県・漁協系統役員ら約40名が出席するなか、8月27日(火)兵庫県水産会館で開催されました。

塾生は、修了論文の認定を審査する運営委員からの質問にも堂々と答え、これまで学んできたことの集大成となる修了論文の発表を無事に終えることができました。

最後に、運営委員を代表して講評を行った関西学院大学 田和 正孝教授は、一人ずつの論文に対して評価をされたのち、4人の発表はプレゼンテーションの域を超えた大変優秀なものであったとまとめられました。



修了論文発表の様子



委員からは様々な質問が…

- 希望に満ちた活気ある漁業を目指して、漁業後継者確保に向けて、  
第7期生 上田 章太 (JF坊勢)  
指導員：峰 浩司 (県姫路農林水産事務所)
- これからの船曳網漁について  
第7期生 東根 大介 (JF淡路島岩屋)  
指導員：内田 健二 (県水産技術センター)
- 第7期中育成を通じて  
第7期生 福島 寛之 (JF五色町)  
指導員：齋藤 公司 (県洲本農林水産振興事務所)
- これからの漁協経営について  
第7期生 山崎 栄祐 (JF五色町)  
指導員：都倉 由樹 (県洲本農林水産振興事務所)
- (発表順：敬称略)
- 【運営委員(敬称略)】田和 正孝 (関西学院大学)・近藤 敬三 (県農林水産局水産課)・山村 雅雄 (県立水産技術センター)・突々 淳 (JF兵庫漁連)・戸田 氏認 (兵庫県水産振興基金)